

令和3年度全国学力・学習状況調査 紀宝町の結果概要

令和3年9月7日 紀宝町教育委員会

1. 各教科の「平均正答率」・「平均正答数」等

【小学校：6年生】	国語	算数
紀宝町	63% (8.8/14問)	69% (11.1/16問)
三重県	64% (9.0/14問)	69% (11.1/16問)
全国	64.7% (9.1/14問)	70.2% (11.1/16問)
平均無解答率（紀宝町）	4.1%	3.3%
平均無解答率（全国）	4.3%	2.6%

＜町平均正答率＞ 全国平均との比較では、国語、算数ともに全国・県平均ほんのわずかに下回っていますが、平均正答数の割合で見るとほぼ同じといえます。

＜町平均無解答率＞ 算数では全国平均よりわずかに高くなりましたが、国語ではほんの少しだけ低くなっています。この町平均無解答率の割合は、児童たちが最後まであきらめず粘り強くテストに取り組んだ結果と言えます。

【中学校：3年生】	国語	数学
紀宝町	61% (8.6/14問)	54% (8.7/16問)
三重県	63% (8.8/14問)	58% (9.2/16問)
全国	64.6% (9.0/14問)	57.2% (9.1/16問)
平均無解答率（紀宝町）	1.9%	6.1%
平均無解答率（全国）	4.4%	11.2%

＜町平均正答率＞ 全国平均との比較では、国語、数学ともに全国平均をやや下回りました。平均正答数では、国語、数学ともに全国とわずかに0.4問の差でした。

＜町平均無解答率＞ 全国平均と比較して、全ての教科でおよそ半分程度となっており、生徒たちが、問題としっかりと向き合い、最後まであきらめずに本当に粘り強く取り組んだ結果と言えます。

※ 現中学3年生が、小学校6年生時（平成30年）の本調査結果と平均正答率を比較すると、2科目ともに全国平均との差を縮めることができました。

(H30小6時：国A問題 -5.7、国B問題 -4.7 ⇒R3中3：国 -3.6)

(H30小6時：算A問題 -3.5、算B問題 -6.5 ⇒R3中3：数 -3.2)

= 平均無解答率の減少は学びへのステップ =

以前は、国語の「長い文章を読んで答える問題」や算数・数学の「文章問題」などは、苦手意識が先行して、問題を読む前から解答をあきらめてしまう児童・生徒も少なくありませんでした。

ここ数年紀宝町の小中学校では、普段の授業やテストにおいて、「たとえ、難しい問題に出会ったとしても、最後まであきらめずにがんばろう。」という指導を継続・徹底してきました。また、読む力、考える力、書く力、発表する力などの向上を目指して、ていねいに取り組んできました。

その結果、記述式問題での無解答率は、小・中ともに低くなってきており、特に中学校では、全国の無解答率を大きく下回る問題がほとんどで、以前からの取り組みの成果であり、紀宝町の児童・生徒たちの成長につながっているとと言えます。

《参考》「標準化得点」による経年変化の比較

※「標準化得点」=全国平均正答率を100で表した場合の紀宝町の学校の得点

令和元年度調査以降、A問題（知識）とB問題（活用）を統合した問題となりました。単純に比較することはできませんが、参考資料としてご覧ください。

※「標準化得点換算ツール」（文部科学省）を利用

小学校	R3	R元		H30
国語	99	100	国語 A	97
			国語 B	98
算数	100	99	算数 A	98
			算数 B	97
全国	100	100		100

中学校	R3	R元		H30
国語	98	99	国語 A	99
			国語 B	99
数学	99	100	数学 A	102
			数学 B	99
英語		101		
全国	100	100		100

※令和2年度の学力調査は実施せず。

【小学校】平成30年度調査までは、年々成果を上げつつも全国平均を少し下回る状況で推移していましたが、令和元年度、3年度調査では、ほぼ全国平均と同じになってきています。

【中学校】今回は、国語が全国平均をわずかに下回りましたが、数学はほぼ全国平均と同じでといえます。毎年少しずつ改善されてきおり、全ての教科でほぼ全国平均に並んできており、大きく下回ることがなくなってきました。

2. 各教科における『学習指導要領』の領域ごとの特徴

【小学校】《平均正答率比較》 ◎…紀宝町の強み、▲…紀宝町の弱み

国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・全国より高い…「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ・全国より低い…「書くこと」、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」 <p>◎「文の中における主語と述語との関係を捉える：文中の『残されています』の主語として適切なものを選択する」（領域：言葉の特徴や使い方…）については、正答率が89%で、全国平均を12pt上回っている。</p> <p>▲「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える：文章中の構成についての説明として適切なものを選択する」（領域：書くこと）については、正答率が56%に留まり、全国平均より9pt下回っている。</p>
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ・全国より高い…「数と計算」、「図形」、「測定」、「データの活用」 ・全国より低い…「変化と関係」 <p>◎「三角形の面積の求め方を理解している：直角三角形の面積を求める」（領域：図形）については、正答率が63%だが、全国平均を8pt上回っている。</p> <p>▲「速さと道のりを基に、時間を求める式に表す：分速540mのバスが、2700m進むのにかかる時間を求める式を書く」（領域：変化と関係）については、正答率が67%に留まり、全国平均より18pt下回っている。</p>

pt=ポイント

【中学校】

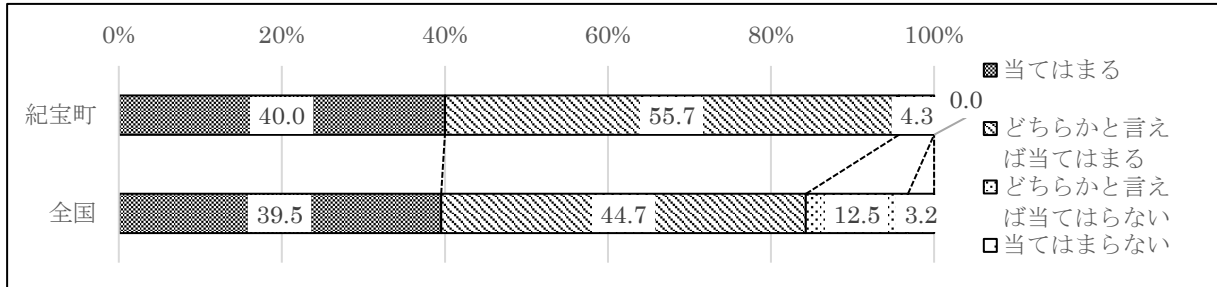
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・全国より高い… ・全国より低い…「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」 <p>◎「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ：記述式」（領域：読むこと）については、正答率29%だが、全国平均を8pt上回っている。</p> <p>▲「文脈の中における語句の意味を理解する：『呼吸をのみこんだ』の意味として適切なものを選択」（領域：読むこと）については、正答率が27%で、全国平均より16pt下回っている。</p>
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ・全国より高い…「関数」 ・全国より低い…「数と式」、「図形」、「資料の活用」 <p>◎「関数の意味を理解している：経過した時間と影の長さの関係を『…は…の関数である』という形で表現する」（領域：関数）については、正答率74%で、全国平均を26ptも上回っている。</p> <p>▲「具体的な場面で、一元一次方程式をつくる：数量の関係を一元一次方程式で表す」（領域：数と式）については、平均正答率が53%に留まり、全国平均を18pt下回っている。</p>

3. 「児童・生徒質問紙」調査の特徴的な傾向

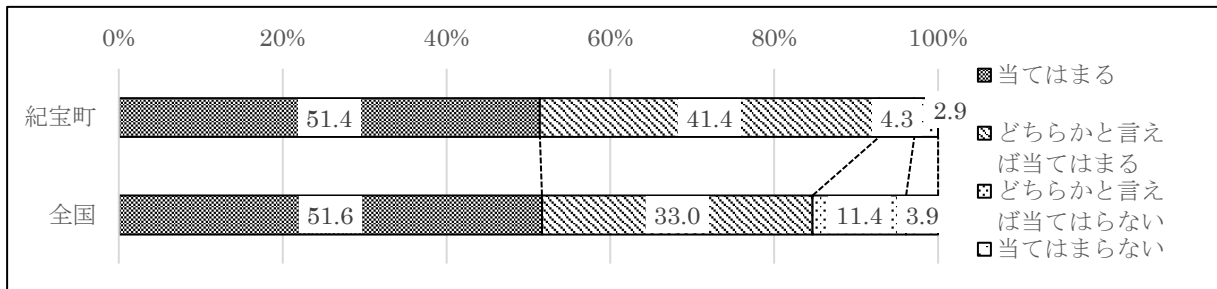
「児童・生徒質問紙」調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する児童生徒への調査です。調査結果より、特徴的な傾向を考察します。

学びの充実に向けて 【小学校】

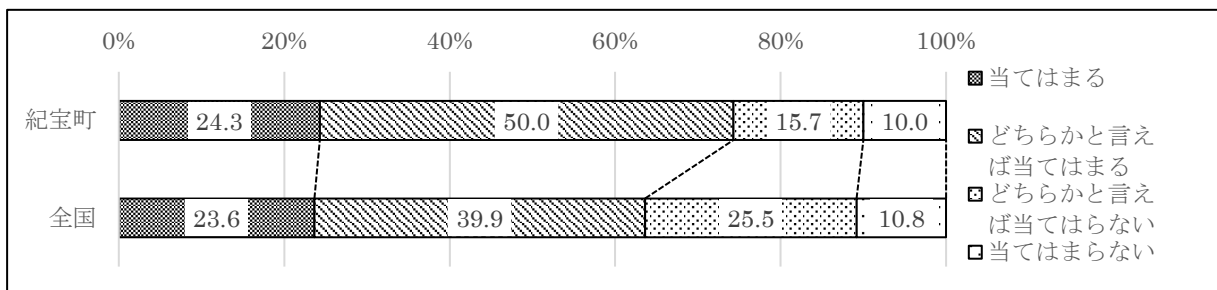
Q1. 国語の授業の内容はよく分かりますか



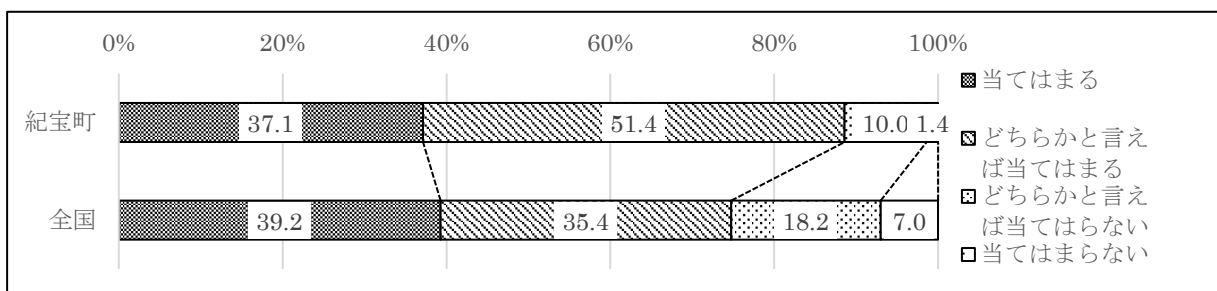
Q2. 算数の授業の内容はよく分かりますか



Q3. 授業で自分の考えを公表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

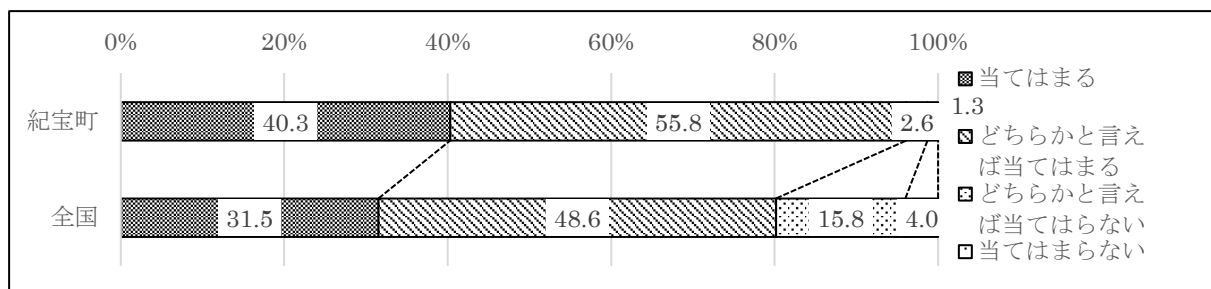


Q4. 英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか

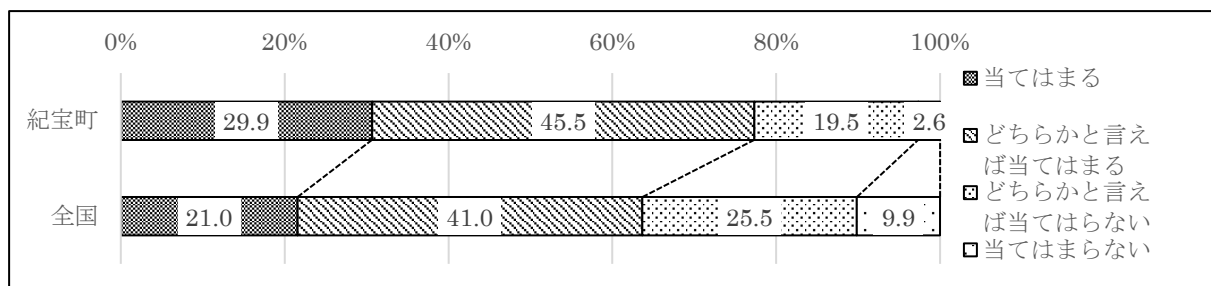


【中学校】

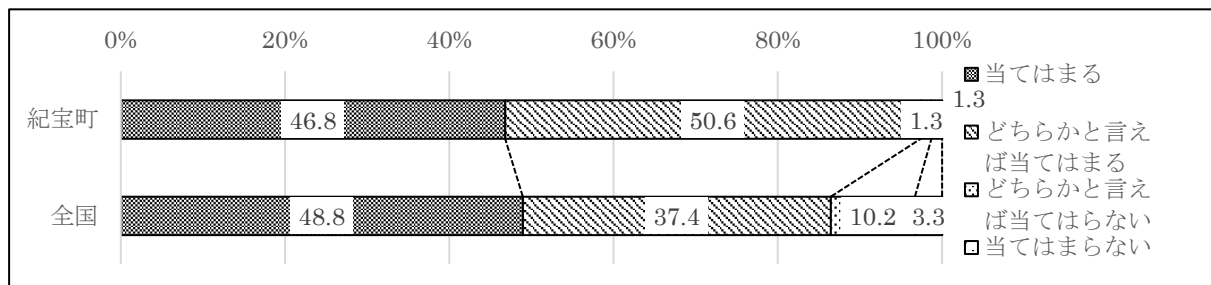
Q5. 国語の授業の内容はよく分かりますか



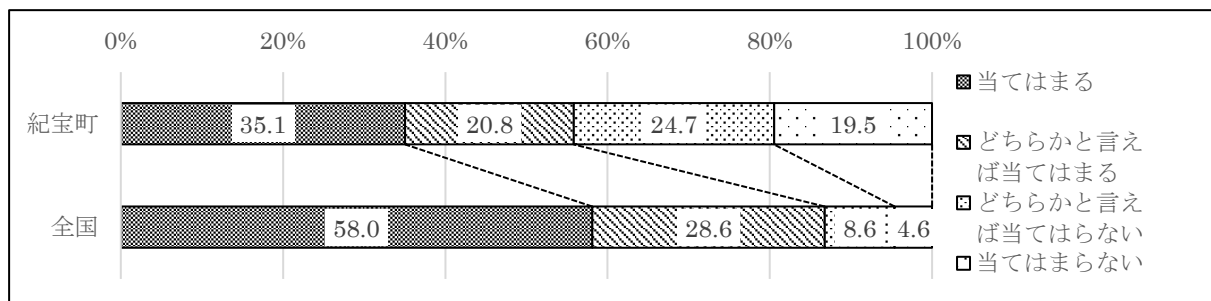
Q6. 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



Q7. 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか



Q8. 数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



※「肯定的な回答」=『当てはまる』+『どちらかと言えば当てはまる』

◎ [小Q1・Q2、中Q5]: 「国語の授業の内容はよく分かる」に対して、肯定的な回答をした割合は、小学生が12pt、中学生が16pt全国を上回った。小学校の「算数の授業の内容がよく分かる」でも全国を8pt上回った。これらは、[小Q3、中

Q6)の質問にある「考えをうまく伝える工夫」(全国より、小学生が11pt、中学生が13pt高い)をすることで、授業での意欲的な姿勢や学校における授業の工夫・改善の取り組みの成果でもある。

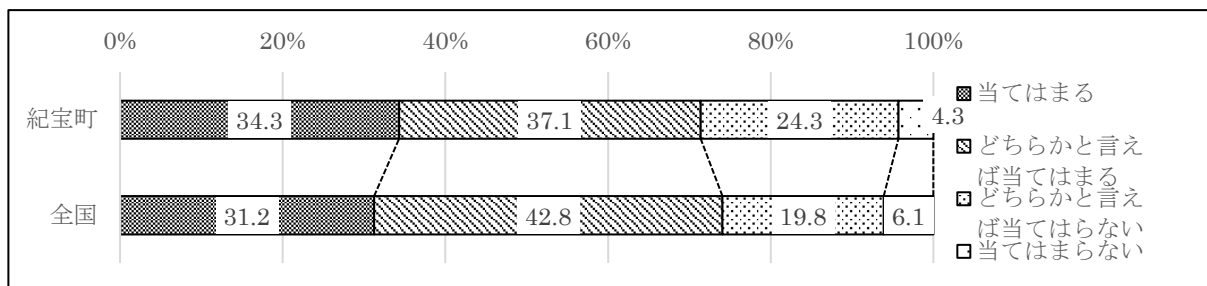
◎〔中Q7〕:「学級やグループで話し合ったりする活動」に対して、肯定的な回答をした中学生の割合が11pt全国平均を上回った。小中ともに、多くの教科でグループ活動を取り入れるなど、日頃からの研修の成果を踏まえて町内教職員が積極的に子どもたちの学び合う態勢づくりに取り組んでいる様子が伺える。

◎〔小Q4〕:小学校の「英語の授業では、英語で考えや気持ちを伝え合う」に対して、肯定的な回答が、全国を14ptも上回った。昨年度より小学校3年生以上で英語が必修となったが、紀宝町では、以前より小中学校が連携し、またALT(外国語指導助手)等を活用しながら小学校英語教育の推進に努めてきた。今後も、これらの取り組みを継続・発展させていきたい。

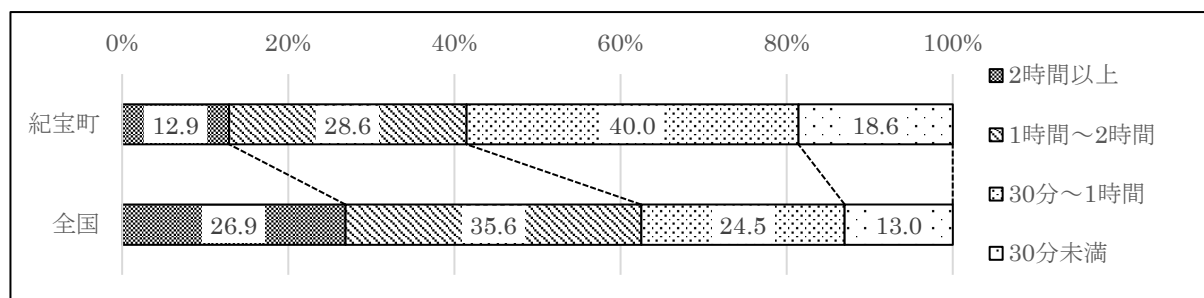
◎〔中Q8〕:中学校の「数学の授業でのノートの書き方の工夫」に対しては、全国平均を31pt下回っており、具体的でよりよい指導が必要である。

家庭学習・生活習慣について【小学校】

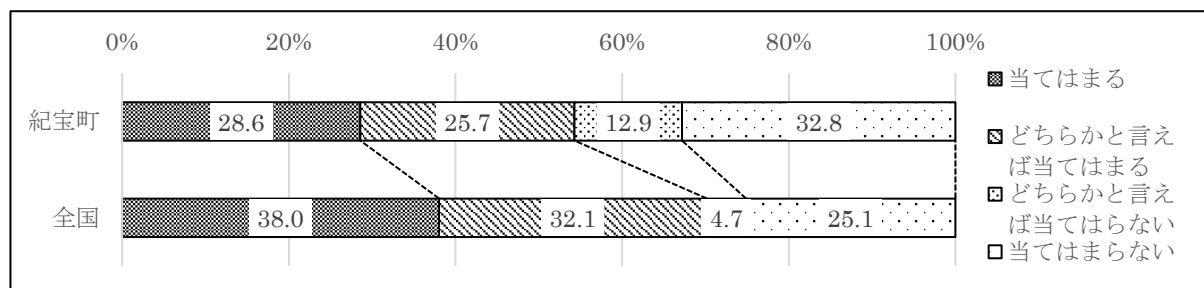
Q9. 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか(授業の予習や復習を含む)



Q10. 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットの活用も含む)

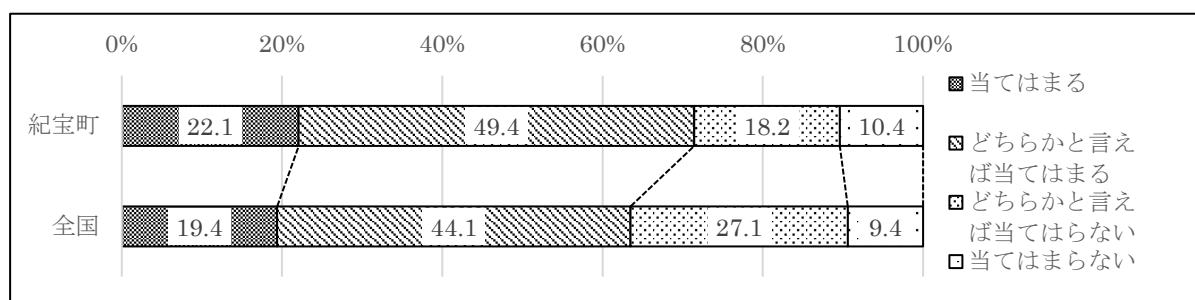


Q11. 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか

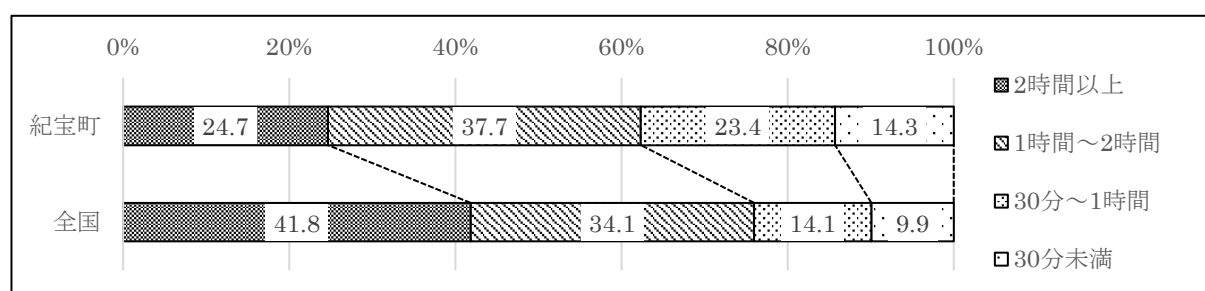


【中学校】

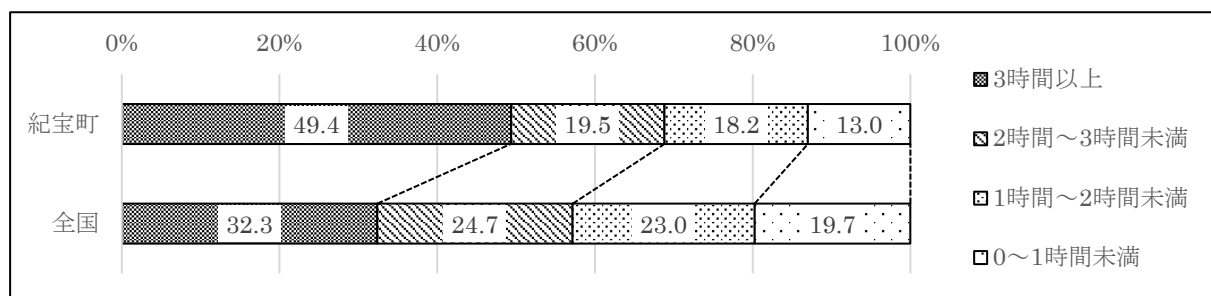
Q12. 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか（授業の予習や復習を含む）



Q13. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットの活用も含む）



Q14. 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか



◎〔小Q9〕：「自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して、肯定的な回答をした小学生の割合は、全国より3pt下回ったが、前回（-9pt）までと比較すると着実に計画的に勉強を進めようとする児童が増えているといえる。

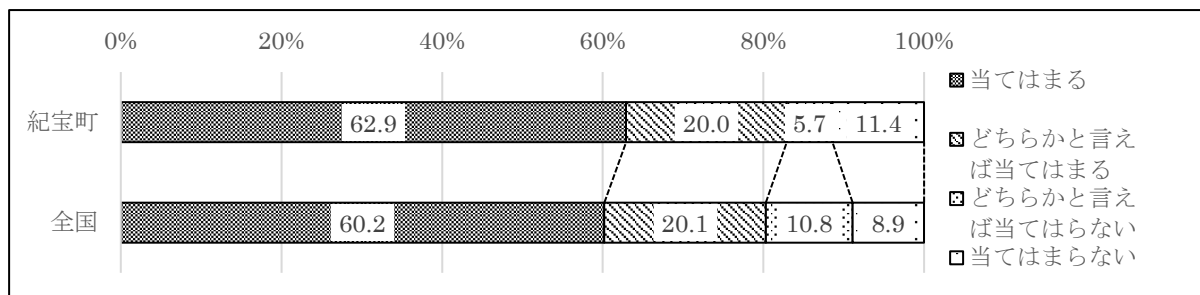
◎〔中Q12〕中学生は、全国を8pt（前回；+5pt）上回った。以前は、全国を大きく下回っていた時期もあったが、授業の予習・復習を含む家庭学習への意欲が伺える結果となってきた。今後は、将来への夢や目標を見据えながら、進路指導やキャリア教育をさらに充実させていく必要がある。

◎〔小Q10・中Q13〕：家庭学習の時間は、「2時間以上」と「1時間～2時間」の割合を合わせて、小学生が21pt（前回；-9pt）全国を下回り、中学生は14pt（前回；-13pt）下回る結果となった。また、〔小Q11〕「スマホやコンピュータの使い方について約束を守っている」小学生の割合は、全国より16pt低く、〔中

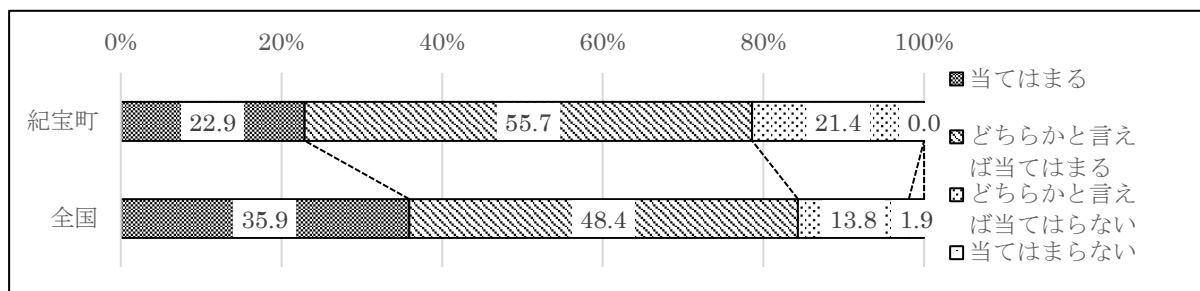
Q14]「普段のテレビゲームや携帯・スマホゲームの利用時間」で2時間以上する中学生の割合は、全国より12pt高い結果となった。学習時間の確保のために、今後も家庭と連携・協力しながら、主体的な学習習慣を身につけるための指導と環境づくりに継続して取り組んでいく必要がある。

自尊感情・規範意識について 【小学校】

Q15. 将来の夢や目標を持っていますか

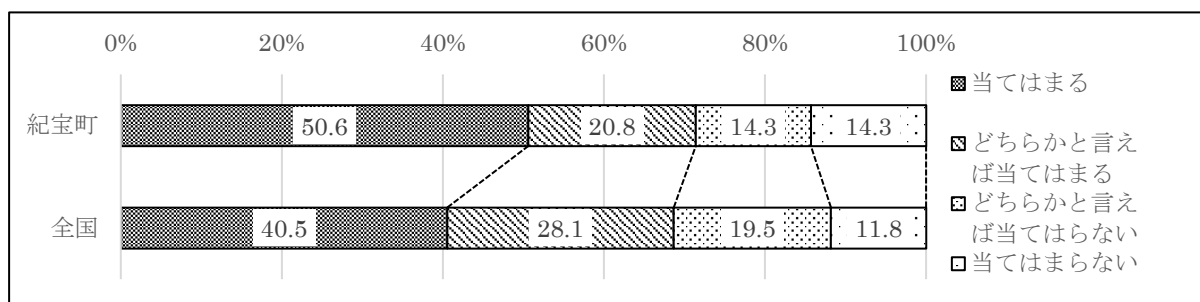


Q16. 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか

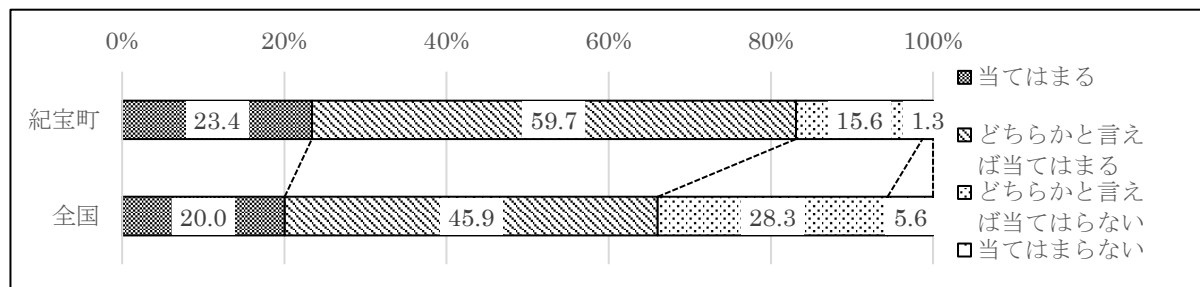


【中学校】

Q17. 将来の夢や目標を持っていますか



Q18. 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか



◎〔小 Q15・中 Q18〕:「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的な回答をした小学生の割合は、全国より 3pt 高い(前回; +6pt)。中学生の割合は、全国より 3pt 高くなっている。前回、中学生は、全国を 9pt 下回っていたが、徐々に改善されてきている。

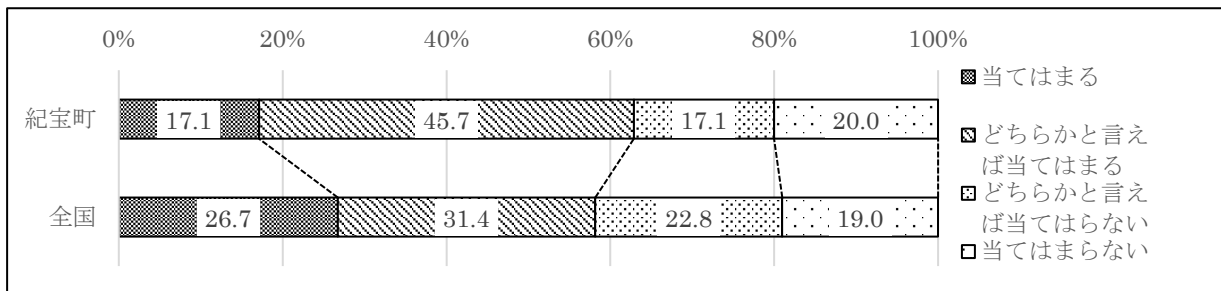
◎〔小 Q16〕:「決めたことは、やり遂げるようにしていますか」に対して、肯定的な回答をした小学生の割合は、全国を 6pt 下回っている。諸活動における達成感を味わいながら、自信につなげ、具体的な夢や目標を描けるよう取り組みを続けていく必要がある。

◎〔中 Q18〕:「失敗を恐れずに挑戦していますか」に対して、肯定的な回答をした中学生の割合は、全国を 17pt (前回; +14pt) も上回っている。この意欲ややる気を大事にして、挑戦する環境とともに失敗から得る学びも大切にしていきたい。

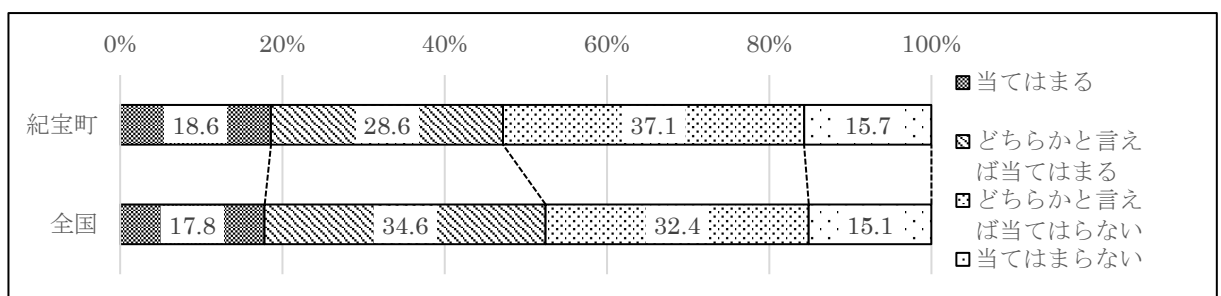
地域との関わり、社会への関心について

【小学校】

Q19. 今住んでいる地域の行事に参加していますか

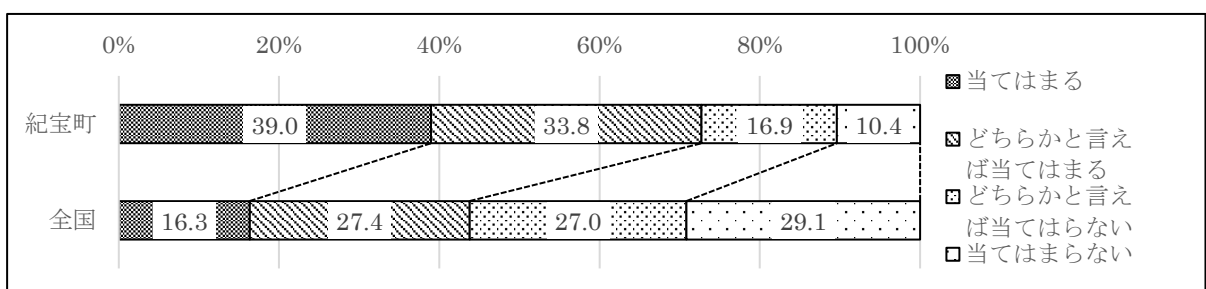


Q20. 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか

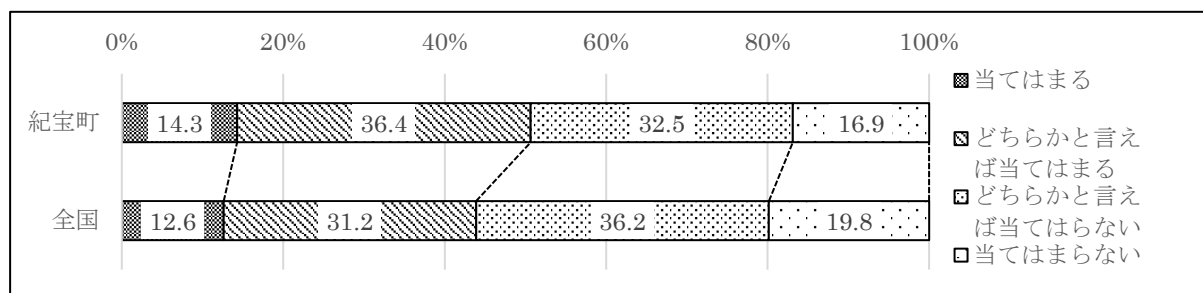


【中学校】

Q21. 今住んでいる地域の行事に参加していますか



Q22. 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



◎〔小 Q19・中 Q21〕：『子どもがいて地域ができる』とも言われるが、全国的には小学生から中学生にかけて、地域行事への参加が減少していく傾向にある。紀宝町の小中学生は、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対して、肯定的な回答をした小学生の割合が、全国より 5pt 高く、さらに中学生の割合は、全国より 29pt も高くなっている。小学生も前回調査（-5pt）と比較すると地域行事への参加は大きく増加している。紀宝町の小中学校の児童・生徒たちは、コミュニティ・スクールとして地域の方と多くの関わりを持ちながら、地域の方々に見守っていただいていることが伺える。

◎〔小 Q20・中 Q22〕：「地域や社会をよくするために考える」ことに対して、肯定的な回答をした小学生の割合は、全国より 5pt 低い（前回；-8pt）が、中学生の割合は、全国より 7pt（前回；+5pt）高くなっている。全国的には、小学生と中学生の地域や社会に対する関心が低下しているが、紀宝町の小中学生は、地域の方々と接する機会が多く、子どもたちの成長にかかわっていて下さるおかげといえる。

※コミュニティ・スクール（=学校運営協議会を設置している学校）

4. 「学校質問紙調査」の特徴的な傾向

【学校質問紙調査】：学校における指導方法に関する取組や、学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関して学校長が回答する調査です。
調査結果より、特徴的な傾向を考察します

紀宝町の小中学校の【強み】=全国平均を上回った項目

《組織的な学校経営の推進》

- ◎「児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の PDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルを確立していますか」
- ◎「校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか」
- ◎「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか」

- 社会を取り巻く様々な状況の変化に伴い、学校は、抱える多様な課題を的確に把握し、解決に向けて取り組んでいかなければならない。そのために、学校は、常に取り組みの検証を行っていかなければならない。

ここに提示した紀宝町の小中学校の「強み」に見られるように、学校長のリーダーシップのもと、PDCA サイクルの確立や研修の推進等々を、教職員が協働しながら組織的・継続的に取り組んでいることが伺える。これらのことは、紀宝町の小中学校の児童・生徒たちの成長や学力向上に大きく寄与している。今後とも各学校間でも連携しながら取り組みの充実を図っていきたい。

《授業の工夫と改善に向けた研修等の推進》

- ◎ 「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」
- ◎ 「外国語教育の充実にとり取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会などを充分設けていますか」また、「言語活動の充実などの授業改善や学習評価の改善に取り組んでいますか」
- ◎ 「教職員は校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか。」
- ◎ 「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか」
- ◎ 「授業の中で目標（めあて・ねらい）を示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか」
- ◎ 「全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか」また、「調査結果を近隣の小・中学校で成果や課題を共有しましたか」

- 「仕事や夢」を考えさせる継続した指導により、児童・生徒の「将来の夢や目標」に対するポイントが上がってきている。今後も継続的な取り組みを進めていく。
- 英語教育や言語活動の充実に向けた授業改善に取り組むことにより、児童生徒質問紙の肯定的回答の「考えや気持ちを伝え合い」「考えがうまく伝わるよう工夫して発表する」ことにつながっていることが伺える。このことは、紀宝町の小中学校の連携した取り組みによる「強み」となっている。
- 教職員が校内外の研修会に積極的に参加し、また教職員相互が研鑽することにより、日ごろの教育活動や授業の工夫・改善に結びついているといえる。
- 授業において、児童・生徒が学びを深めるための「めあて・振り返り」は、町内すべての学校で肯定的な回答を得ており、取り組みの定着が伺える。
- 町内の全ての小中学校では、「全国学力・学習状況調査」や「みえスタディ・チェック」の分析結果を踏まえながら、紀宝町学力向上推進協議会を中心に公開授業研究会などを通じて授業の工夫・改善に取り組んでいる。協働した継続的な検証・改善サイクルが効果を上げてきている。

《地域とともにある学校づくり～地域との関わり～》

- ◎「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）などの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動（学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営など）を行いましたか」
- ◎「保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか」

- ・ 紀宝町の各小中学校に「学校運営協議会」が設置されていることは、子どもを中心として、地域とのかかわりをより深めることにつながっている。学校が地域の方々と共に子どもたちの健全・育成に関われることは、紀宝町の小中学校の大きな強みである。昨年度と同様、児童生徒質問紙調査の結果からも学年が上がるにしたがって、子どもたちも地域の存在とその大切さを実感することにも繋がっている。

また、地域の様々な人材を活用した学びの場も充実している。小学校での様々な施設や地域を訪れ学ぶ「社会見学学習」、中学校での「職場体験学習」「地域に学ぶ」取り組みなど、具体的な教育活動の中での地域の方々の支援は貴重である。今後も「地域とともにある学校（＝コミュニティ・スクール）」として、この地域との関わりを大切にした教育活動をさらに推進していけるよう、「紀宝町学校運営協議会連絡協議会」を中心に、各学校の活動を支援していく必要がある。

紀宝町の小中学校の【弱み】＝全国平均を下回った項目

《学習環境の整備と児童生徒の学びの保障》

- ▲「ICT 機器を活用して、教職員と児童がやり取りする取り組みをどの程度行っていますか」
- ▲「本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか」
- ▲「新型コロナウイルス感染症の影響による地域一斉の学校臨時休校の期間、家庭学習として、（学校や教育委員会・公的機関・民間が作成した）学習動画などを活用しましたか」

- ・ 日々の授業を工夫・改善していくためのツールとして、ICT 機器の活用は児童・生徒の学びの深まりにとって重要な要素である。
- ・ 全国的に ICT 機器を活用した授業づくりが進んできている。新型コロナウイルス感染症の影響により、ICT 機器を活用して学びの保障をしていく必要があるが、実際の授業の中での教師と児童・生徒とのオンラインによる学習機会は、まだまだ十分ではなく、早急な取り組みが必要である。
- ・ ICT 機器の活用は、児童・生徒の学びを保障し、「主体的・対話的で深い学び」を実現していく上でも大きな力となる。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、家庭における学習の充実をも含めた ICT 機器の環境整備と各学校における ICT 機器を活用した授業づくりに工夫が、今求められている。紀宝町においても、現在、強力的に取り組みを進めているところである。

4. 今後の町教育委員会の取組 =改善に向けて=

紀宝町教育委員会では、今回の学力・学習状況調査の結果からわかる子どもたちや各学校の「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。現在、各学校の主体的な取組を支援する主な事業として、次のような児童・生徒の学力向上の取組を継続・推進しています。

◇ 紀宝町学力向上推進協議会による指導方法の工夫・改善、各学校全職員の協働による学力向上の取組の継続的な検証サイクルの確立

※全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの活用

- ・各学校での自校採点と結果分析による、課題の共有と授業改善
- ・過去問題や県教委作成ワークシートの授業・家庭学習での活用

※学力向上に向けた各学校への支援

- ・新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた確かな学力の育成
- ・授業改善の取組を通じた、学習の基盤としての言語活動の充実 など

※町内の優れた実践を活用・共有化～各学校の公開授業研究会等への支援～

- ・著名な大学教授等の講師を招聘した先進事例に学ぶ機会として

※ICTを活用した『授業づくり』の工夫と改善

◇ 小学校英語担当者会議の充実と小学校英語力向上

※小学校が相互連携した小学校英語教育の推進（ALT を活用した授業体制の確立）

◇ 各学校の授業力向上と指導方法の改善のための校内研修への支援

- ※各学校の校内研修へ町教育委員会指導主事・アドバイザーを派遣
- ※県教育委員会や紀州教育支援事務所指導主事からの支援・助言

◇ サマースクール・ウィンタースクールおよび放課後サポートスクール事業による自主学習の習慣化

◇ 教員の授業力の向上と指導方法の改善を図るための紀宝町研究指定校事業（毎年2校を指定）の実施や、石川県中能登町教職員との視察交流研修の推進

◇ 紀宝町立図書館との連携による幼児期からの読書活動推進の取組や学校における読書活動推進の支援

◇ 県教育委員会：ICTを活用した『わかる授業』確かな実践事業に係るモデル校の指定

※複数の教員による習熟度別少人数指導の推進（今年度は町内小学校1校が指定を受ける）

◇ 「みえの学力向上県民運動」に係る生活習慣等チェックシートを活用した集中取組（各小中学校において年2回実施）

保護者・地域の皆様の日ごろからのご理解とご協力に感謝申し上げます。

今後も、県教育委員会と連携しながら、これらの事業を充実・発展させるとともに、見直しも図りながら、児童・生徒の学力の向上に繋げるための支援に取り組んでまいります。